

《履修モデル》

講座	4.認知・行動・健康科学講座
学系	認知情報学系
関係・分野	認知・行動科学（認知科学分野）
教員	教授：齋木 潤（認知科学）・小村 豊（システム神経科学）・月浦 崇（認知神経科学）・熊田孝恒（情報学研究科：心理情報学） 准教授：中島亮一（情報学研究科：応用認知心理学）
1回生	<p><全学共通科目> 心理学Ⅰ／脳と生命のシステム科学／脳・生命・心の探求／生命と情報／神経科学の基礎／統計入門／プログラミング演習／英語ライティングーリスニングAなど</p> <p><学部科目> 認知心理学Ⅰ・Ⅱ（知覚・認知心理学）／神経心理学Ⅰ・Ⅱ（神経・生理心理学）／視覚科学基礎ゼミナール／神経心理学基礎ゼミナール／基礎演習：視覚科学／基礎演習：神経心理学／心理学研究法／心理学概論</p> <p>将来配属を希望する教員によって推奨する科目があるので、個別に担当教員に問い合わせることを期待する。上記科目は2回生でも可。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 英語ライティングーリスニングB／数理統計／上記1回生の欄に記載されている全学共通科目など</p> <p><学部科目> 視覚認識論／視覚認識論演習／記憶機能論／記憶機能論演習／応用認知心理学／応用認知心理学演習／（システム脳科学）／（システム脳科学演習）／脳と心の生命機能ゼミナールⅠ・Ⅱ／心理学実験</p> <p>将来配属を希望する教員によって推奨する科目があるので、個別に担当教員に問い合わせることを期待する。上記科目は3回生でも可。*カッコ内の科目は隔年開講のため、令和6年度には開講しません。</p>
3回生	<p><学部科目> 視覚認識論ゼミA・B／記憶神経科学ゼミA・B／心理情報学ゼミA・B／認知科学実験</p> <p>指導教員の決定に向けて、前期の早い時期から配属を希望する教員にコンタクトを取って相談をすること。また、上記以外にも配属希望教員によって推奨する科目もあるため、担当教員に相談をすること。</p>
4回生	<p>就職活動などの場合を除き、平日は原則的に毎日研究室に顔を出し、各研究室の担当教員と相談した上で、卒業論文に関連する研究を進めること。 およそのスケジュールとしては、前期は、卒業論文に関連する研究計画の立案と倫理委員会の承認、予備実験・本実験を行い、同時に卒業論文に関する文献調査も随時行う。後期は、実験をさらに進めると同時に、データの解析を行ったうえでその結果を考察する。それらの作業を通して、最終的に卒業論文を執筆する。</p> <p>卒業論文の研究は日々の積み重ねが大切であり、一朝一夕に完成するものではない。卒業研究は授業レポートとは異なり、列記とした研究である。したがって、非常に多くの時間と労力が必要であることを肝に銘じ、毎日を過ごすことを期待する。</p>
<p>1回生では、全学共通科目や基礎ゼミ等を通して、心理学、神経科学に関する基礎的な素養を身につけるとともに、将来の研究を実施するためのスキルとしての統計、プログラミング、英語などの学習に力をいれるようにしてください。</p> <p>2回生では、卒論担当教員が実施する講義や演習の専門科目を通して、将来所属したい研究室で実施している研究内容の実際を知ると同時に、研究スキルのさらなる向上をめざすようにしてください。</p> <p>3回生では、所属する研究室を決定するため、指導を希望する教員が開催しているゼミ科目に参加し、研究内容を専門的に理解することをめざしてください。また、卒業研究を実際に実施するためのスキルとして、認知科学実験を履修するようにしてください。</p> <p>4回生では、日常的な研究室での活動をベースとして、卒論研究のテーマ設定し、実験および解析を実施し、卒業論文の執筆を行うことに取り組んでください。</p>	

《履修モデル》

講座	4.認知・行動・健康科学講座
学系	認知情報学系
関係・分野	認知・行動科学（行動制御学分野）
教員	教授：神崎 素樹（運動制御学）・久代 恵介（行動制御学）准教授：萩生 翔大（神経生理学・運動学習）
1回生	<p><全学共通科目> 運動科学Ⅰ／体力医科学／運動の生理学／運動のしくみ／身体運動の適応と学習／スポーツ心理学／スポーツ実習Ⅰ</p> <p><学部科目> 認知・行動科学入門</p>
	<p>運動や健康に関する基礎科目について履修するのが望ましい。 上記科目は2回生でも可。</p>
2回生	<p><全学共通科目> 脳と身体運動ゼミナール／スポーツ実習Ⅱ</p>
	<p>生理学・運動学・心理学のより専門的な科目を履修すること。 上記科目は3回生でも可。</p>
3回生	<p><学部科目> 行動制御実験演習／運動制御ゼミA・B／行動制御ゼミA・B</p>
	<p>指導教員の決定に向けて、前期の早い段階から配属を希望する教員にコンタクトをとるようにしてください。</p>
4回生	<p><前期>配属先の研究室において、研究室ミーティングなどに参加すること。卒論担当教員とよく相談し、研究計画を立案し、倫理委員会に申請・承認を得ること。また、卒業研究に関連する文献調査も行う。 <後期>本実験を行う。同時に解析も行い、不十分な点はさらに実験を行う。実験と解析を通して、卒業論文を執筆する。</p>
	<p>卒業研究は、皆さんにとっておそらく初めて「本当の学問」に接する機会だと思います。</p>
<p>1回生では、全学共通科目や認知・行動科学入門を通じて、運動や健康に関する基礎的な知識を身につけます。 2回生では、運動や健康に関してさらに専門的な知識を身につけます。 3回生では、運動制御、行動制御、神経生理に関する知識だけでなく、実験の技術を磨きます。 4回生では、卒業研究の執筆を行います。</p>	

《履修モデル》

講座	4.認知・行動・健康科学講座	
学系	認知情報学系	
関係・分野	認知・行動科学 (身体機能論分野)	
教員	教授：林 達也（健康科学/運動医科学/内分泌代謝学） 助教：江川 達郎（分子健康科学/運動生物学/骨格筋生物学）	教授：船曳 康子（こころの発達/発達障害/メンタルヘルス/精神医学）
1～2回生	<p><全学共通科目> 健康科学/スポーツ実習 リレー講義：ILASセミナー：障害とは何か/環境学</p> <p><学部科目> 生活習慣と生体機能障害（人体の構造と機能及び疾病）/分子運動医科学ゼミ/応用運動医科学ゼミ リレー講義：認知・行動科学入門</p>	<p><全学共通科目> 健康心理学I <学部科目> 基礎演習：心の発達ゼミ/精神保健福祉概論（関係行政論）/心の発達と問題行動の理解（司法・犯罪心理学） リレー講義：認知・行動科学入門、心理学研究法 （注）心理学実験、文学部開講の心理学統計法などの統計の授業を履修しておく、卒業研究時に役立つことが多い。</p>
	<p>「こころのはたらきと健康・疾患」に関連する授業を船曳が、「からだのはたらきと健康・疾患」に関連する授業を林が担当します。最初からどちらか一方に決めるのではなく、両方の授業を広く履修して、「こころとからだ」についての幅広い知識を身に付けてください。また、スポーツ実習、特に、心身の健康増進に重きを置いた科目（「フィットネス・ウォーキング」など）や、車いすバスケットなどの障害者スポーツ、身体活動能力にかかわらず楽しむことができるよう工夫・適合（adapt）されたレクリエーションスポーツを体験することができる「アダプテッドスポーツ」の履修を推奨します。</p>	
3～4回生	<p><学部科目> 「分子運動医科学ゼミ」と「応用運動医科学ゼミ」は、「健康科学I」および「生活習慣と生体機能障害」を履修しておくことより理解しやすい。このため、両ゼミを3回生になってから履修してもよい。</p>	<p>1～2回生で履修した内容を土台に、研究室にて、認知機能や行動面、またそれらの発達に関する実践的な卒業研究を行う。</p>
	<p>林あるいは船曳の専門分野に興味のある学生には、希望に応じて、3回生前期から、卒業論文作成あるいは修士課程進学に向けた専門的学習指導・研究指導を行う。</p>	
<p>3. 4回生のみならず、希望があれば、1, 2回生からの専門的学習指導や研究指導も受け付けています。詳細は林または船曳に直接に連絡をとって説明を受けてください。</p>		